



麦穂

東村山市立東村山第一中学校

令和6年度 3月号 学校だより

発行者 校長 坂下 惣栄

2月3日から2月8日(土)までは、「いのちとこころの教育週間」でした。

東村山市の全小・中学校では、命に係わる授業を通して、自他の生命を大切にすることや、他者との違いを理解し、互いに認め合うことができる豊かな心を育む教育を行っています。今回は、私から皆さんに、詩を贈ります。

この詩は、10歳の息子を亡くしたアメリカ人のノーマ・コネット・マレックさんが、その悲しみを綴った詩です。アメリカで起きた9・11同時多発テロの追悼集会でこの詩が朗読されると、瞬く間に世界中で読み継がれ、日本でも2011年に発生した東日本大震災後に静かに広がっていきました。「行ってきます」「また明日ね」「バイバイ」「おやすみ」など、私たちが短い別れだと思っている言葉は、時として永遠の別れの言葉になってしまうことがあります。

「最後だとわかっていたら」

あなたが眠りにつくのを見るのが最後だとわかっていたら、私はもっとちゃんとカバーをかけて、神様にその魂を守ってくださるように祈っただろう。

あなたがドアを出て行くのを見るのが最後だとわかっていたら、私はあなたを抱きしめて、キスをして、そしてまたもう一度呼び寄せて抱きしめただろう。

あなたが喜びに満ちた声をあげるのを聞くのが最後だとわかっていたら、私はその一部始終をビデオにとって毎日繰り返し見ただろう。

あなたは言わなくても分かってくれていたかもしれないけど、最後だとわかっていたら、一言だけでもいい、「あなたを愛してる」と私は伝えたいだろう。

たしかにいつも明日はやってくる。でも、もし、それが私の勘違いで今日で全てが終わるのだとしたら、私は、今日、どんなにあなたを愛しているか伝えたい。

そして、私は忘れないようにしたい。

若い人にも、年老いた人にも、明日は誰にも約束されていないのだということを、愛

する人を抱きしめられるのは、今日が最後になるかもしれないことを。

明日が来るのを待っているなら、今日でもいいはず。もし、明日が来ないとしたら、明日が来るのを待っているあなたは、今日を後悔するだろうから。

微笑みや抱擁やキスをするための、ほんのちょっとの時間を、どうして惜しんだのかと、忙しさを理由に、その人の最後の願いとなってしまったことを、どうして、してあげられなかったのかと。

だから、今日、あなたの大切な人たちを、しっかりと抱きしめよう。

そして、その人を愛していること、いつでも、いつまでも、大切な存在だということをそっと伝えよう。

「ごめんね」や「許してね」や「ありがとう」や「気にしないで」を伝える機会をもとう。そうすれば、もし明日が来ないとしても、あなたは今日を後悔しないだろうから。（終）

今、こうして、昨日と同じように家族や友達、みんなが元気で、「おはよう」や「こんにちは」、そして、「ただいま」が言えるのは、実は奇跡のようなことで、突然、大切な人を失った人にとっては、伝えたくても伝えられない、手に入れたくても、どうしても手に入れない「幸せ」なのだと思います。

ですから、自分のいのちと同じように、他人のいのちも大切にしましょう。

みなさん、一人一人がかけがえのない大切な存在であることは言うまでもありません。もし、みなさんが困難で危機的な状況に追い込まれた時、一人で抱え込んではいけません。自分のいのちを大切にするために、自分の気持ちを話せる人を見つけてください。

保護者や友達へサインを出してください。

学校で話しやすい先生に相談してください。

身近にいる信頼できる大人に SOS を出してください。

相談窓口も利用できます。

皆さん、今日のこの詩を読んで、何か感じることを思うことがあったなら、この「いのちとこころの教育週間」以降も友達や家族と命の大切さについて少し話す時間を設けてみてください。